

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 079	提案機関名 三浦市農協
要望問題名 ナモグリバエ対策	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 三浦半島全域のダイコン・キャベツに「ナモグリバエ」が多発しています。発生は、10月～4月上旬までダイコン、早春及び春キャベツの外葉と結球部に被害を出しています。 春キャベツの出荷に影響が出ている状況です。 ①技術センターからの対策として農薬による防除が紹介されているもの1剤、ハチハチ乳剤がありますが、臭いがして環境から問題とされる。その他の農薬でも、ダイコン、キャベツの作型が重なることで、一斉防除が進められません。環境保全型農業を目指していることから、農薬使用の削減を図っています。 ②天敵利用の成績が有りますが、冬の天敵の発生はない。 ③粘着版の設置を試みっていますが、物理的に防除には無理がある。 今後、どのような対策がよいか、三浦半島地区事務所を中心に課題解決をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名 農業技術センター	担当部所 三浦半島地区事務所・ 農業環境研究部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) かながわ特産品等の生産に必要な農薬の実用化に関する試験研究 (1) 新農薬実用化試験、(2) かながわ特産品等マイナー作物に対する農薬登録促進	
対応の内容等 これまで本害虫の対策については、当事務所と農業環境研究部において「化学合成農薬の使用を減らすための病害虫防除技術の開発-アブラナ科作物ナモグリバエに対する天敵温存型防除体系の確立」の課題で取り組んで参りました。要望内容にありますように冬期の天敵は防除に適用できず、また大型の露地野菜産地でもあり物理的防除も適用できない状況のなか、トルフェンピラド乳剤（ハチハチ乳剤）の使用は実用的であることを成果情報として示したところですが、要望にありますように昆虫等に対する殺虫スペクトラムが広く、環境に負荷のかかりやすい薬剤で、臭気や眼刺激性の問題等もあり今後さらによりよい対応が必要であることは認識しております。農薬メーカーとの情報交換やメーカーへの要望を行い、上記課題のなかで本害虫に対して有効かつ諸問題を解決できる農薬登録の拡大を進めて参ります。具体的には、トルフェンピラド水和剤（ハチハチフロアブル）やクロラントラニリプロール水和剤（プレバゾンフロアブル5）について取り組む予定です。	
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	